AX4600S

AX4600S ソフトウェアマニュアル訂正資料
(Ver.11.11.B 以降対応版)

AlaxalA

2014 年 4 月発行（初版）

■はじめに

本資料は，AX4600S ソフトウェアマニュアル（All Rights Reserved, Copyright(C),2014, ALAXALA Networks, Corp.）の訂正内容について説明するものです。本装置のマニュアルを読む場合は，この資料もあわせてお読みください。本資料の対象となるマニュアル一覧を以下に示します。

項番	マニュアル名称	マニュアル番号	発行
1	AX4600S ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションガイド Vol.1（Ver.11.11 対応版）	AX46S-S001	2014 年 2 月
2	AX4600S ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションガイド Vol.2（Ver.11.11 対応版）	AX46S-S002	2014 年 2 月
3	AX4600S ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションガイド Vol.3（Ver.11.11 対応版）	AX46S-S003	2014 年 2 月
4	AX4600S ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1（Ver.11.11 対応版）	AX46S-S004	2014 年 2 月
5	AX4600S ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.2（Ver.11.11 対応版）	AX46S-S005	2014 年 2 月
6	AX4600S ソフトウェアマニュアル 運用コマンドレファレンス Vol.1（Ver.11.11 対応版）	AX46S-S006	2014 年 2 月
7	AX4600S ソフトウェアマニュアル 運用コマンドレファレンス Vol.2（Ver.11.11 対応版）	AX46S-S007	2014 年 2 月
8	AX4600S ソフトウェアマニュアル メッセージ・ログレファレンス（Ver.11.11 対応版）	AX46S-S008	2014 年 2 月
9	AX4600S ソフトウェアマニュアル MIB レファレンス（Ver.11.11 対応版）	AX46S-S009	2014 年 2 月

■商標一覧

・ Ethernet は，富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
・ Internet Explorer は, 米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
・ IPX は，Novell,Inc.の商標です。
・ Microsoft は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
・ Windows は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
・ RSA，RSA SecurID は，RSA Security Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
・ sFlow は，米国およびその他の国における米国の InMon Corp.の登録商標です。
・ イーサネットは，富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
・ Wake on LAN は，IBM Corp.の登録商標です。
・ MagicPacket は，Advanced Micro Devices,Inc.の登録商標です。
・ そのほかの記載の会社名，製品名は，それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ご注意

この資料は，改良のため，予告なく変更する場合があります。

■発行

2014 年 4 月（初版）

■著作権

All Rights Reserved, Copyright(C), 2014, ALAXALA Networks, Corp.

目　次

はじめに 4

1. コンフィグレーションガイド Vol.1(Ver.11.11 対応版) (AX46S-S001)の訂正内容 5

2. コンフィグレーションガイド Vol.2(Ver.11.11 対応版) (AX46S-S002)の訂正内容 7

3. コンフィグレーションガイド Vol.3(Ver.11.11 対応版) (AX46S-S003)の訂正内容 7

4. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1(Ver.11.11 対応版) (AX46S-S004)の訂正内容 8

5. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.2(Ver.11.11 対応版) (AX46S-S005)の訂正内容 11

6. 運用コマンドレファレンス Vol.1(Ver.11.11 対応版) (AX46S-S006)の訂正内容 12

7. 運用コマンドレファレンス Vol.2(Ver.11.11 対応版) (AX46S-S007)の訂正内容 17

8. メッセージ・ログレファレンス(Ver.11.11 対応版) (AX46S-S008)の訂正内容 17

9. MIB レファレンス(Ver.11.11 対応版) (AX46S-S009)の訂正内容 17

はじめに

■ Ver.11.11.B でご使用時の注意事項【訂正】

「Ver.11.11 での制限事項（未サポート項目）」の表を「Ver.11.11.B でご使用時の注意事項」に訂正します。
［Ver.11.11.B 以降］

Ver.11.11.B での制限事項（未サポート項目）

対応機能	サポート項目	制限事項（未サポート）
スタック機能	• スタックポート：最大 4 本 • スタック構成：最大 2 台 • スタックポート指定範囲：QSFP＋（装置背面）ポート	• スタックポート : NAXG-24RS の 10G 指定
運用端末とリモート操作	• コンソール（RS-232C） • リモート（telnet／ftp／tftp）	• マネージメントポート • ダイアルアップ IP 接続
ログインセキュリティ	• ローカルパスワード認証 • RADIUS 認証	• TACACS＋認証
省電力機能	－	• 全機能
イーサネット	• 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T • 1000BASE-X • 10GBASE-R • 40GBASE-R（SR4/LR4/CR4）	• 100BASE-FX
VLAN	• ポート VLAN（アクセス／トランク） • MAC VLAN	• プロトコル VLAN • VLAN トンネリング • Tag 変換
IGMP/MLD snooping	－	• 全機能
レイヤ 2 認証	• MAC 認証	• IEEE802.1X • Web 認証 • 認証 VLAN
DHCP snooping	－	• 全機能
アップリンク・リダンダント	－	• 全機能
CFM	－	• 全機能
SNMP	• MIB • Trap	• RMON
OADP	－	• 全機能
DHCP サーバ機能	－	• 全機能
OSPF 拡張機能	－	• グレースフル・リスタート
IPv6 DHCP リレー	－	• 全機能
IPv6 DHCP サーバ機能	－	• 全機能
OSPFv3 拡張機能	－	• グレースフル・リスタート
IPv6 マルチキャストルーティング	－	• 全機能

1. コンフィグレーションガイド Vol.1(Ver.11.11 対応版)(AX46S-S001)の訂正内容

17 イーサネット

17.2.5 ジャンボフレームの設定

(1) ポート単位の MTU の設定 【訂正】

［設定のポイント］を以下のように訂正します。

【訂正前】

［設定のポイント］

ポート 1/1/10 のポートの MTU を 8192 オクテットに設定します。この設定によって，Untagged フレームであれば 8206 オクテット，Tagged フレームであれば 8210 オクテットまでのジャンボフレームを送受信できるようになります。

【訂正後】

［設定のポイント］

ポート 1/1/10 のポートの MTU を 8192 オクテットに設定します。この設定によって，8210 オクテットまでのジャンボフレームを送受信できるようになります。

(2) 全ポート共通の MTU の設定 【訂正】

［設定のポイント］を以下のように訂正します。

【訂正前】

［設定のポイント］

本装置の全イーサネットインタフェースでポートの MTU を 4096 オクテットに設定します。この設定によって，Untagged フレームであれば 4110 オクテット，Tagged フレームであれば 4114 オクテットまでのジャンボフレームを送受信できるようになります。

【訂正後】

［設定のポイント］

本装置の全イーサネットインタフェースでポートの MTU を 4096 オクテットに設定します。この設定によって，4114 オクテットまでのジャンボフレームを送受信できるようになります。

17.4.1 機能一覧

(5) 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 接続時の注意事項【訂正】

「(5) 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 接続時の注意事項」を以下のように訂正します。

【訂正前】

- 伝送速度，および全二重モードが相手装置と不一致の場合，接続できないので注意してください。
- 不一致の状態で通信を行うと，以降の通信が停止することがあります。この場合，当該ポートに対して inactivate コマンド，activate コマンドを実行してください。
- 使用するケーブルについては，マニュアル「ハードウェア取扱説明書」を参照してください。
- 全二重インタフェースはコリジョン検出とループバック機能を行わないことによって実現しています。
- このため，10BASE-T または 100BASE-TX を全二重インタフェース設定で使用する場合，相手接続ポートは必ず全二重インタフェースに設定して接続してください。
- 1000BASE-T を使用する場合は全二重のオートネゴシエーションだけとなります。
- 10BASE-T および 100BASE-TX を使用する場合は，全二重の接続だけとなります。
- 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポートを 1000BASE-T で使用すると，パケット長に応じてスループットが約 600Mbit/s に制限されたり，優先度に関係なくパケットが廃棄されたり，該当する回線の MIB の一部で正しい値が表示されなかったりするおそれがあります。そのため，該当するポートを使用する場合は次の条件で使用することを推奨します。
  - 10BASE-T または 100BASE-TX で使用してください（初期導入時または運用コマンド erase configuration を実行したあとのコンフィグレーションには，speed auto 10 100 が設定されています）。
  - 1000BASE-T で使用するときは，自装置および対向装置の回線速度を 600Mbit/s 以下でシェーピングしてください。
  - 1000BASE-T で使用するときは，メンテナンス用のポートなど，優先度に関係なくパケットが廃棄されても問題がない用途で使用してください。

【訂正後】

- 伝送速度，および全二重モードが相手装置と不一致の場合，接続できないので注意してください。
- 不一致の状態で通信を行うと，以降の通信が停止することがあります。この場合，当該ポートに対して inactivate コマンド，activate コマンドを実行してください。
- 使用するケーブルについては，マニュアル「ハードウェア取扱説明書」を参照してください。
- 全二重インタフェースはコリジョン検出とループバック機能を行わないことによって実現しています。
- このため，10BASE-T または 100BASE-TX を全二重インタフェース設定で使用する場合，相手接続ポートは必ず全二重インタフェースに設定して接続してください。
- 1000BASE-T を使用する場合は全二重のオートネゴシエーションだけとなります。
- 10BASE-T および 100BASE-TX を使用する場合は，全二重の接続だけとなります。

2. コンフィグレーションガイド Vol.2(Ver.11.11 対応版)(AX46S-S002)の訂正内容

訂正内容はありません。

3. コンフィグレーションガイド Vol.3(Ver.11.11 対応版)(AX46S-S003)の訂正内容

訂正内容はありません。

4. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1(Ver.11.11 対応版) (AX46S-S004)の訂正内容

12 イーサネット

(1) duplex (gigabitethernet)【訂正】

［パラメータ］の「表 12-1　指定可能なパラメータ」を以下のように訂正します。［Ver.11.11.B 以降］

【訂正前】

表 12-1　指定可能なパラメータ

回線種別	指定可能なパラメータ
10BASE-T/100BASE-TX/ 1000BASE-T	auto（speed auto/auto 1000 指定時）
1000BASE-X	auto（speed auto/auto 1000 指定時） full （speed 1000 指定時）
100BASE-FX	full

【訂正後】

表 12-1　指定可能なパラメータ

回線種別	指定可能なパラメータ
10BASE-T/100BASE-TX/ 1000BASE-T	auto（speed auto/auto 10/auto 100/auto 1000/auto 10 100/auto 10 100 1000 指定時） full （speed 10 または speed 100 指定時だけ）
1000BASE-X	auto（speed auto/auto 1000 指定時） full （speed 1000 指定時）
100BASE-FX	full

(2) mtu【訂正】

［注意事項］の「表 12-5　MTU および送受信可能なフレーム長」を以下のように訂正します。

【訂正前】

表 12-5　MTU および送受信可能なフレーム長

回線種別	mtu 設定	system mtu 設定	送受信可能フレーム長（オクテット）	ポート MTU（オクテット）
10BASE-T（全二重）	関係しない	関係しない	Tagged 1518 Untagged 1514	1500
上記以外	設定あり	関係しない	Tagged M1※1+18 Untagged M1※1+14	M1※1
	設定なし	設定あり	Tagged M2※2+18 Untagged M2※2+14	M2※2
		設定なし	Tagged 1518 Untagged 1514	1500

注※1　interface の mtu コマンドで設定した値

注※2　system mtu コマンドで設定した値

【訂正後】

表 12-5　MTU および送受信可能なフレーム長

回線種別	mtu 設定	system mtu 設定	送受信可能フレーム長（オクテット）	ポート MTU（オクテット）
10BASE-T（全二重）	関係しない	関係しない	Tagged 1518 Untagged 1518	1500
上記以外	設定あり	関係しない	Tagged M1※1+18 Untagged M1※1+18	M1※1
	設定なし	設定あり	Tagged M2※2+18 Untagged M2※2+18	M2※2
		設定なし	Tagged 1518 Untagged 1518	1500

注※1　interface の mtu コマンドで設定した値

注※2　system mtu コマンドで設定した値

(3) speed (gigabitethernet)【訂正】

本コマンドの記述を以下のように訂正します。［Ver.11.11.B 以降］

［入力形式］

情報の設定・変更

speed { 10 | 100 | 1000 | auto | auto {10 | 100 | 1000 | 10 100 | 10 100 1000} }

情報の削除

no speed

［入力モード］

(config-if)

［パラメータ］

{ 10 | 100 | 1000 | auto | auto {10 | 100 | 1000 | 10 100 | 10 100 1000} }

回線速度を設定します。

回線種別と指定可能なパラメータの組み合わせを次の表に示します。

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T または 1000BASE-X で指定可能なパラメータ以外を指定した場合，auto で動作します。

100BASE-FX で指定可能なパラメータ以外を指定した場合，100 で動作します。

表 12-7　指定可能なパラメータ

回線種別	指定可能なパラメータ
10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T	10 100 auto auto 10 auto 100 auto 1000 auto 10 100 auto 10 100 1000
1000BASE-X	1000 auto auto 1000
100BASE-FX	100

10
回線速度を 10Mbit/s に設定します。

100
回線速度を 100Mbit/s に設定します。

1000
回線速度を 1000Mbit/s に設定します。

auto
回線速度をオートネゴシエーションに設定します。

auto {10 | 100 | 1000 | 10 100 | 10 100 1000}
指定された回線速度でオートネゴシエーションを行います。本設定によって，意図しない回線速度になり，回線使用率が上がることなどを防ぎます。指定された回線速度でネゴシエーションできなかった場合はリンクがアップしません。

1. 本パラメータ省略時の初期値
省略できません
2. 値の設定範囲
10，100，1000，auto，auto {10 | 100 | 1000 | 10 100 | 10 100 1000}

［コマンド省略時の動作］

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T または 1000BASE-X の場合，auto となります。
100BASE-FX の場合，100 となります。

［通信への影響］

運用中のポートに指定した場合，いったんポートがダウンし，一時的に通信が停止します。そのあとで再起動します。

［設定値の反映契機］

設定値変更後，すぐに運用に反映されます。

［注意事項］

1. speed または duplex のどちらか一方に auto または auto を含むパラメータを指定した場合，オートネゴシエーションを行います。
2. 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T でオートネゴシエーションを使用しない場合，speed を 10 または 100 にするとともに，duplex を full にする必要があります。
3. 1000BASE-X でオートネゴシエーションを使用しない場合，speed を 1000 にするとともに，duplex を full にする必要があります。
4. 1000BASE-X のポートで 100BASE-FX 用 SFP を実装している場合，オートネゴシエーションを使用できません。

［関連コマンド］

duplex

(4) system mtu【訂正】

［注意事項］の「表 12-9　MTU および送受信可能なフレーム長」を以下のように訂正します。

【訂正前】

表 12-9　MTU および送受信可能なフレーム長

回線種別	mtu 設定	system mtu 設定	送受信可能フレーム長（オクテット）	ポート MTU（オクテット）
10BASE-T（全二重）	関係しない	関係しない	Tagged 1518 Untagged 1514	1500
上記以外	設定あり	関係しない	Tagged M1※1+18 Untagged M1※1+14	M1※1
	設定なし	設定あり	Tagged M2※2+18 Untagged M2※2+14	M2※2
		設定なし	Tagged 1518 Untagged 1514	1500

注※1　interface の mtu コマンドで設定した値

注※2　system mtu コマンドで設定した値

【訂正後】

表 12-9　MTU および送受信可能なフレーム長

回線種別	mtu 設定	system mtu 設定	送受信可能フレーム長（オクテット）	ポート MTU（オクテット）
10BASE-T（全二重）	関係しない	関係しない	Tagged 1518 Untagged 1518	1500
上記以外	設定あり	関係しない	Tagged M1※1+18 Untagged M1※1+18	M1※1
	設定なし	設定あり	Tagged M2※2+18 Untagged M2※2+18	M2※2
		設定なし	Tagged 1518 Untagged 1518	1500

注※1　interface の mtu コマンドで設定した値

注※2　system mtu コマンドで設定した値

5.　コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.2(Ver.11.11 対応版) (AX46S-S005)の訂正内容

訂正内容はありません。

6. 運用コマンドレファレンス Vol.1(Ver.11.11 対応版)(AX46S-S006)の訂正内容

18 イーサネット

(1) test interfaces【訂正】

本コマンドの記述を以下のように訂正します。［Ver.11.11.B 以降］

［入力形式］

```
test interfaces gigabitethernet <nif no.>/<port no.> {internal | connector}
    [auto_negotiation {10base-t | 100base-tx | 1000base-t}]
    [interval <interval time>] [pattern <test pattern no.>]
    [length <data length>]
test interfaces tengigabitethernet <nif no.>/<port no.> {internal | connector}
    [interval <interval time>] [pattern <test pattern no.>]
    [length <data length>]
test interfaces fortygigabitethernet <nif no.>/<port no.> {internal | connector}
    [interval <interval time>] [pattern <test pattern no.>]
    [length <data length>]
```

［入力モード］

一般ユーザモードおよび装置管理者モード

［パラメータ］

gigabitethernet
　最大回線速度が 1Gbit/s のイーサネットインタフェースを指定します。

tengigabitethernet
　最大回線速度が 10Gbit/s のイーサネットインタフェースを指定します。

fortygigabitethernet
　最大回線速度が 40Gbit/s のイーサネットインタフェースを指定します。

<nif no.>/<port no.>
　NIF 番号，ポート番号を指定します。指定できる値の範囲は「パラメータに指定できる値」を参照してください。

internal
　モジュール内部ループバックテストを指定します。

connector
　ループコネクタループバックテストを指定します。
　ループコネクタループバックテストを実行する場合は，ループコネクタを接続してください。

auto_negotiation　{10base-t | 100base-tx | 1000base-t}
　コンフィグレーションの speed コマンドに"auto"を指定し，回線テストを行う場合のセグメント規格を指定します。
　speed コマンドに"auto"以外を指定した場合は，本パラメータは指定できません。回線種別が 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T で RJ45 ポートの場合だけ指定できます。

本パラメータ省略時の動作

100base-tx になります。

interval <interval time>

指定した秒数だけ送信間隔を空けます。指定値の範囲は 1～30 の 10 進数です。

本パラメータ省略時の動作

送信間隔は 1 秒になります。

pattern <test pattern no.>

テストのパターン番号を指定します。指定値の範囲は 0～4 です。

0：テストパターン 1 から 4 までを順に繰り返す。

1：all 0xff

2：all 0x00

3：

"** THE QUICK BROWN FOX JUMPS OVER THE LAZY DOG.0123456789 **"パターン繰り返し

4：データ化け検出パターン

本パラメータ省略時の動作

テストパターン番号は 3 になります。

length <data length>

テストで使用するフレームのデータ長（MAC ヘッダ，FCS を除いたもの）をオクテットで指定します。指定値の範囲は次の表のとおりです。

表 18-38　テスト種別ごとの指定値の範囲

No	テスト種別	データ長 （オクテット）	省略時 （オクテッット）
1	モジュール内部ループバックテスト	46～1500	500
2	ループコネクタループバックテスト	46～9216※	500

注※ auto_negotiation パラメータに 10base-t を指定した場合は, 1500 を超える値を指定しても 1500 オクテットとなります。

すべてのパラメータ省略時の動作

個々の「本パラメータ省略時の動作」に記載の動作になります。

［スタック構成時の運用］

未サポートです。

［実行例］

イーサネット回線テストの開始画面を次の図に示します。ポート番号 2 に，テストパターンがオール 0xff でデータ長が 100 オクテットのフレームを 5 秒間隔で送信するモジュール内部ループバックテストを開始します。

図 18-28 回線テスト 開始画面

```
> test interfaces gigabitethernet 1/2 internal interval 5 pattern 1 length 100
```

［表示説明］

なし

［通信への影響］

なし

［応答メッセージ］

表 18-39　test interfaces コマンドの応答メッセージ一覧

メッセージ	内容
<nif no.>/<port no.> is disabled.	指定ポートがコンフィグレーションにより disable 状態です。指定パラメータを確認してください。 <nif no.>：NIF 番号 <port no.>：ポート番号
<nif no.>/<port no.> is failed.	指定ポートは障害中です。指定パラメータを確認してください。 <nif no.>：NIF 番号 <port no.>：ポート番号
<nif no.>/<port no.> is not fortygigabitethernet.	指定されたポートは fortygigabitethernet インタフェースではありません。指定パラメータを確認してください。 <nif no.>：NIF 番号 <port no.>：ポート番号
<nif no.>/<port no.> is not gigabitethernet.	指定されたポートは gigabitethernet インタフェースではありません。指定パラメータを確認してください。 <nif no.>：NIF 番号 <port no.>：ポート番号
<nif no.>/<port no.> is not tengigabitethernet.	指定されたポートは tengigabitethernet インタフェースではありません。指定パラメータを確認してください。 <nif no.>：NIF 番号 <port no.>：ポート番号
Can't execute this commad in all switches configured stack.	スタック構成ではコマンドを実行できません。
Can't execute.	コマンドを実行できません。再実行してください。
Illegal Port -- <port no.>.	ポート番号が範囲外です。指定パラメータを確認してください。 <port no.>：ポート番号
NIF <nif no.> is notconnected.	指定 NIF は未実装，または未使用です。指定パラメータを確認してください。 <nif no.>：NIF 番号
NIF <nif no.> that controls Port <port no.> is disabled.	指定されたポートを制御する NIF が disable 状態です。指定パラメータを確認してください。 <nif no.>：NIF 番号 <port no.>：ポート番号
NIF <nif no.> that controls Port <port no.> is failed.	指定されたポートを制御する NIF が障害中です。指定パラメータを確認してください。 <nif no.>：NIF 番号 <port no.>：ポート番号
NIF <nif no.> that controls Port <port no.> is initializing.	指定されたポートを制御する NIF が初期化中です。指定パラメータを確認してください。 <nif no.>：NIF 番号 <port no.>：ポート番号
No auto negotiation Port <nif no.>/<port no.>	指定ポートはオートネゴシエーションではありません。指定パラメータを確認してください。

	<nif no.>：NIF 番号 <port no.>：ポート番号
No operational Port <port no.>.	指定ポートはコマンド実行可能な状態ではありません。指定パラメータを確認してください。 <port no.>：ポート番号
No support auto negotiation parameter.	指定ポートでオートネゴシエーションパラメータはサポートしていません。指定パラメータを確認してください。
Test already executing.	すでに指定ポートまたはほかのポートがテスト中です。指定ポートに間違いがなければ実行不要です。または，他ポートのテストを中止してから再実行してください。

［注意事項］

・ ループコネクタの抜き差しは，ポートが inactive 状態中に行ってください。

・ 回線テストスタート後は，回線テストストップが発行されるまで回線テストを繰り返し実行します。

・ auto_negotiation パラメータの 1000base-t を指定し，ループコネクタループバックテストを行う場合にはカテゴリ 5 以上で 8 芯 4 対のループコネクタが必要です。

・ 回線テストは 1 ポートずつ実施してください。

・ 1000BASE-LH，1000BASE-LHB，10GBASE-ER でループコネクタループバックテストを行う場合には，光アッテネータ（光減衰器）が必要です。光の減衰については次の表を参照してください。

表 18-40　光の減衰

回線種別	減衰値（db）
1000BASE-LH	5～22
1000BASE-LHB	17～36
10GBASE-ER	5～11

・ 1000BASE-BX では，送信と受信の波長が異なり，また 1 芯の光ファイバを使用するため，通常のループコネクタではループコネクタループバックテストを行えません。

・ 回線テスト実行中にトランシーバを抜き差しすると，テスト結果のすべてのカウント数が 0 と表示される場合があります。また，トランシーバを抜き差ししたときに，抜き差しを示すログメッセージが表示される前に回線テストを実行すると，抜き差しを示すログメッセージが出力されない場合があります。どちらの場合も，no test interface コマンド実行後に正常な状態に回復するため，そのまま運用できます。

(2) no test interfaces 【訂正】

「表 18-41　回線テスト実行結果の表示内容」の一部を以下のように訂正します。［Ver.11.11.B 以降］

［表示説明］

表 18-41　回線テスト実行結果の表示内容

表示項目	意味	推定原因	対策
Interface type	回線種別 • 10BASE-T • 100BASE-TX	―	―

	• 1000BASE-T • 100BASE-FX • 1000BASE-LX • 1000BASE-SX • 1000BASE-LH • 1000BASE-BX10-D • 1000BASE-BX10-U • 1000BASE-BX40-D • 1000BASE-BX40-U • 1000BASE-LHB • 10GBASE-SR • 10GBASE-LR • 10GBASE-ER • 10GBASE-CU30CM • 10GBASE-CU1M • 10GBASE-CU3M • 10GBASE-CU5M • 40GBASE-SR4 • 40GBASE-LR4 • 40GBASE-CU35CM • 40GBASE-CU1M • 40GBASE-CU3M • 40GBASE-CU5M ----※1		
（省略）	（省略）	（省略）	（省略）

7. 運用コマンドレファレンス Vol.2(Ver.11.11 対応版)(AX46S-S007)の訂正内容

訂正内容はありません。

8. メッセージ・ログレファレンス(Ver.11.11 対応版)(AX46S-S008)の訂正内容

訂正内容はありません。

9. MIB レファレンス(Ver.11.11 対応版) (AX46S-S009)の訂正内容

訂正内容はありません。